

第3期データヘルス計画の概要

医療保険者は、レセプト等のデータの分析結果に基づき、加入者の健康保持増進のための事業計画として「データヘルス計画」の作成を求められており、平成30年度から「第2期データヘルス計画」（計画期間：平成30年度～令和5年度）に基づき、保健事業を実施してきた。

「第2期データヘルス計画」の計画期間が満了するため、「第2期データヘルス計画」の実績評価を行うとともに、レセプト等のデータの分析を行い、「第3期データヘルス計画」（計画期間：令和6年度～11年度）の策定を進めている。

1. 加入者（組合員及び被扶養者）の現状

組合員、被扶養者ともに令和2年度まで大きな変化はないが、令和3年度にフルタイム会計年度任用職員が、令和4年度に短期組合員が加入したことにより加入者数が増加した。

また、令和3年度、4年度に女性の加入者が増加している。

組合員・被扶養者数の推移

※人数は令和5年11月時点の資格情報により、各月の平均人数をもとに算出。

(単位：人)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
組合員	10,586	10,586	10,767	11,631	13,374
被扶養者	9,769	9,706	9,711	9,727	10,170
合計	20,355	20,292	20,478	21,358	23,544

加入者（組合員・被扶養者）の男性・女性数の推移

※人数は令和5年11月時点の資格情報により、各月の平均人数をもとに算出。

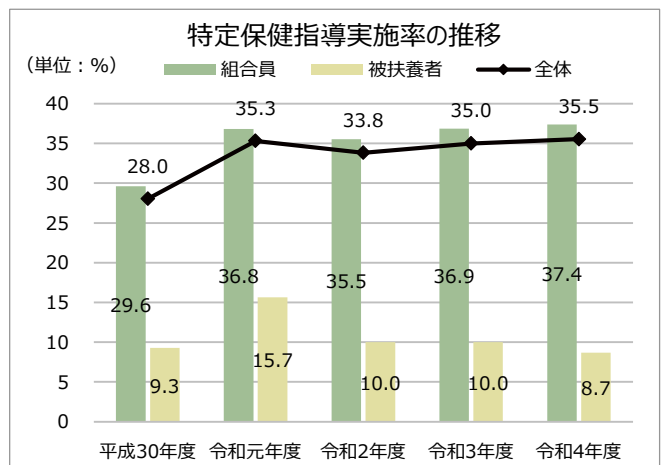
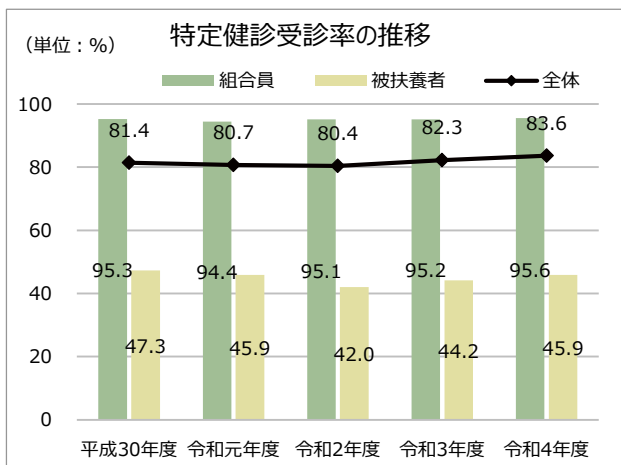
(単位：人)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
男性	10,381	10,336	10,412	10,530	11,228
女性	9,974	9,956	10,066	10,828	12,316
合計	20,355	20,292	20,478	21,358	23,544

2. 第2期データヘルス計画の保健事業の実施状況

令和4年度の特定健診受診率（全体）は83.6%、特定保健指導実施率（全体）は35.5%であり、令和4年度の目標*未達の状況である。 *特定健診受診率89.0%、特定保健指導実施率43.0%

※10政令指定都市の共済組合と比較すると、特定健診受診率は1番低く、特定保健指導実施率は2番目に高い。（10政令指定都市共済組合平均：特定健診受診率86.8%、特定保健指導実施率28.1%）

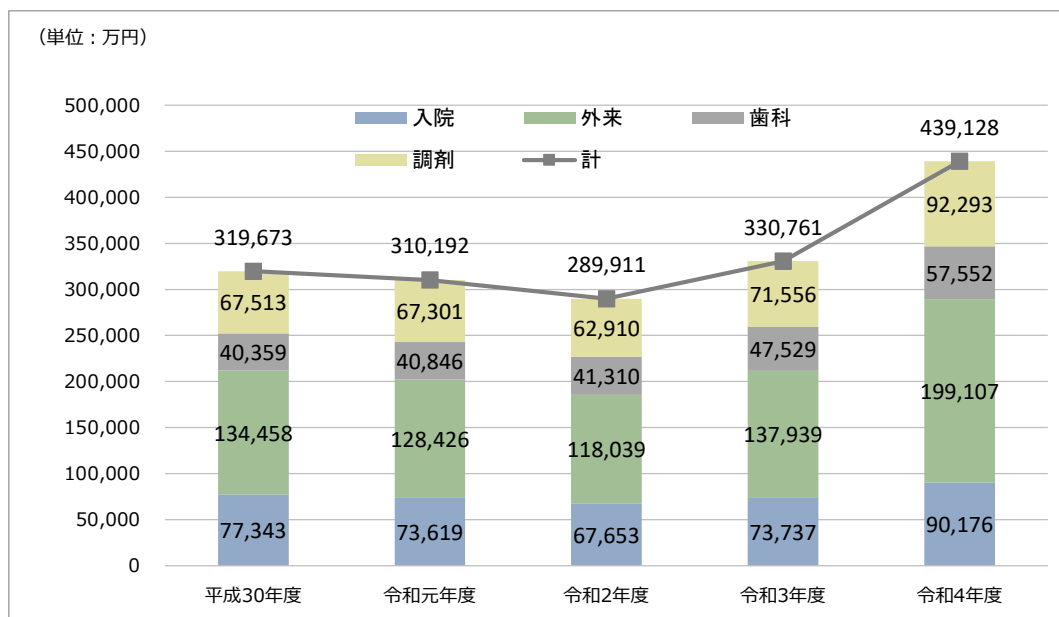


3. 医療費の分析結果

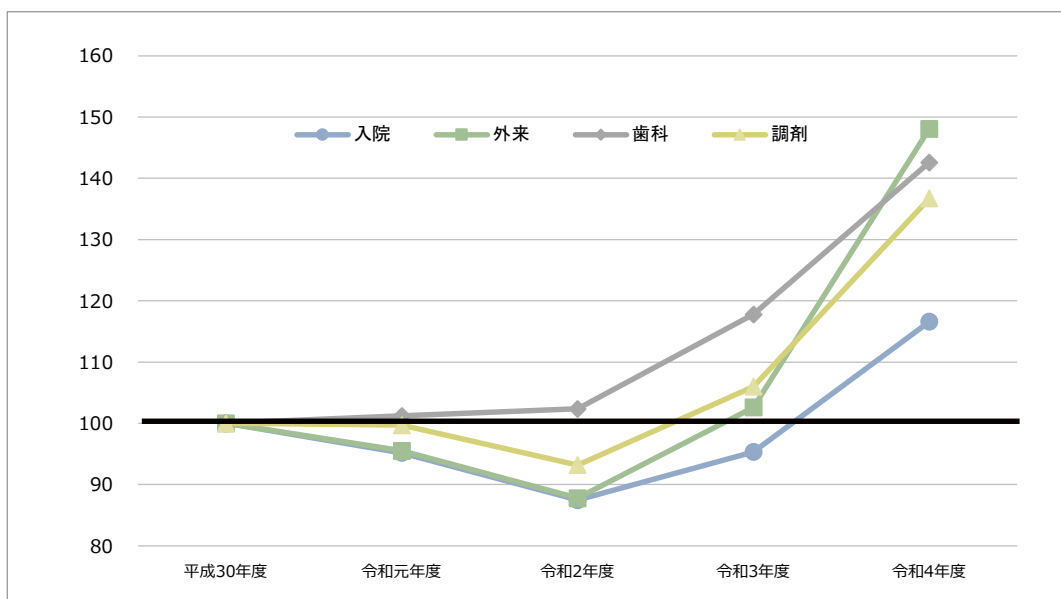
(1) 総医療費（組合員・被扶養者）

- ・令和2年度は、コロナ禍の受診控え等の影響で減少したが、加入者数が増加しており、令和3年度及び4年度は増加している。
- ・平成30年度を100とした場合の総医療費の推移で見ると、特に、外来、歯科、調剤の増加率が大きい。

総医療費の推移

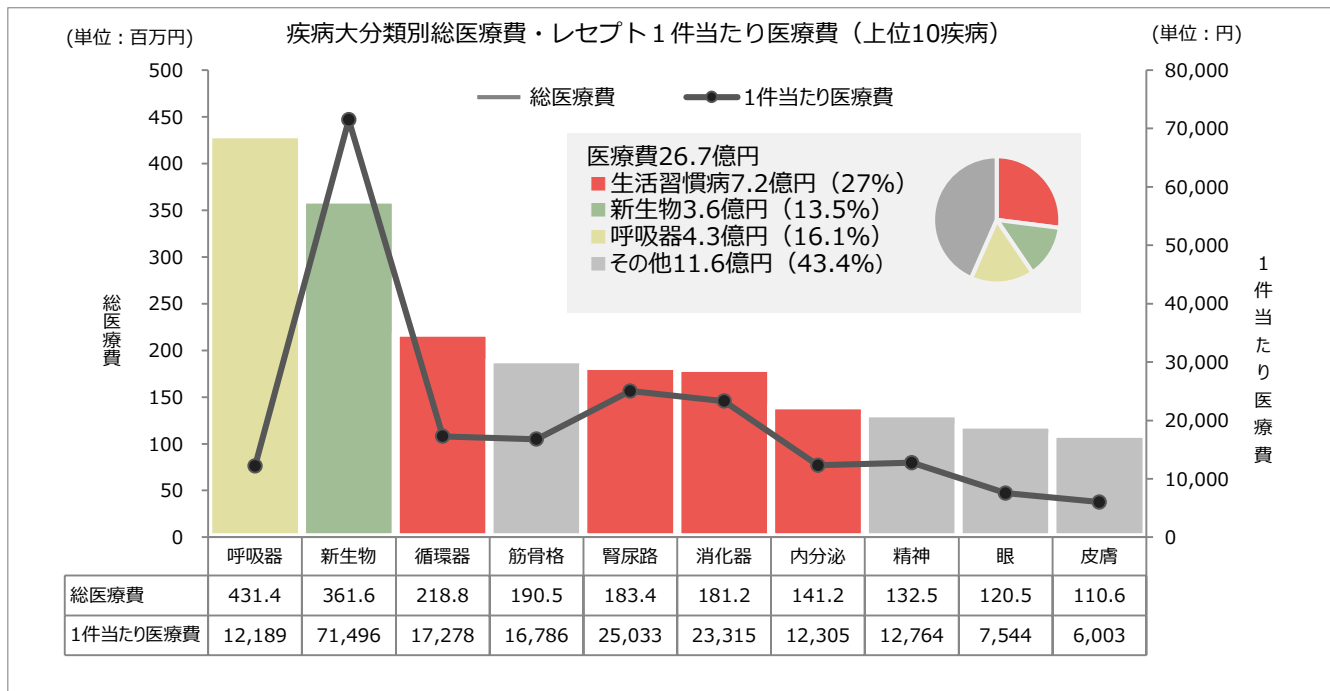


平成30年度を100とした場合の総医療費の推移



(2) 疾病大分類別医療費 上位10疾病 (令和4年度) ※入院・外来のみ、歯科・調剤は除く

- ・呼吸器系疾患は、総医療費が最も高いが、レセプト1件当たり医療費は低い。
- ・新生物は、総医療費、レセプト1件当たり医療費ともに高額である。
- ・循環器、腎尿路、内分泌系疾患等、生活習慣病が上位にあり、総医療費の約3割を占める。



(3) 個別疾病の分析

- ・生活習慣病関連の医療費は、高血圧性疾患 (令和4年度：約2.2億円)、脂質異常症 (約1.9億円)、糖尿病 (約8千万円) の医療費が高額である。
- ・悪性新生物 (がん) 医療費は、胃、大腸、肺、乳、子宮の5種のがんで比較すると、乳がん (令和4年度：約4千万円) の医療費が高く、増加傾向である。

(4) 高額医療受給者の分析

- ・年間総医療費の上位約5%の加入者の医療費が、総医療費の約70%を占めている。
- ・年間総医療費50万円以上の加入者の保有疾病は、「高血圧」「うつ病」「悪性新生物」が多い。

⇒ 生活習慣病の発症・重症化予防の取組みやがんの早期発見・早期治療への取組みが必要。

4. 健診結果の状況 (健康リスク・生活習慣病リスクの保有状況)

(1) 健康リスク保有状況の他共済組合との比較

- ・血圧リスク及び血糖リスクが高い。
- ・脂質リスク、肥満リスク及び肝機能リスクは低い。

(2) 生活習慣リスク保有状況の他共済組合との比較

- ・喫煙習慣、運動習慣、飲酒習慣、食事習慣及び睡眠習慣は良い。

⇒ 血圧リスク及び血糖リスクが高い傾向にあり、生活習慣病の発症予防の取組みが必要。

5. 第3期データヘルス計画における保健事業（主な事業）

健康課題解決のための対策については第2期から実施しており、第3期においては基本的に第2期データヘルス計画の保健事業を継続しつつ、医療費・健診結果の分析に基づき、**生活習慣病の発症・重症化の予防、がんの早期発見・早期治療**に向けた取り組みを重点的に強化していく。

★：重点的に取り組む事業

事業名	実施概要	目標(令和11年度時点) ・ 予定数等
★ 特定健康診査	「高齢者の医療の確保に関する法律」に基づき、メタボリックシンドロームに着目した特定健康診査を実施する。組合員については、事業主が行う定期健康診断又は、当組合が実施する人間ドック、節目健診を受診することで、特定健康診査の受診に代えており、被扶養者及び任意継続組合員を対象に実施する。	特定健診受診率 全体 90.0% 組合員 97.4% 被扶養者 66.4%
★ 特定保健指導	特定健康診査等の結果、生活習慣の改善が必要と認められた者に対して、腹囲やBMIとリスク要因の数により階層化して、特定保健指導を実施する。	特定保健指導実施率 全体 60.0% 組合員 63.4% 被扶養者 24.0%
★ 個別保健指導	特定健康診査等の結果、生活習慣の改善が必要と認められた者に対して、腹囲やBMIとリスク要因の数により階層化して、特定保健指導に準じた保健指導を実施。	－
人間ドック・ 節目健診	健康状態の把握、疾病の早期発見・早期治療のため、組合員・被扶養者を対象とした人間ドック、節目健診*（脳ドックも含む）の費用を一部助成する。（*対象：35,40,45,50,55,60歳）	受診人数 ・ 人間ドック 2,800人 ・ 節目健診 1,200人
★ 胃がん検診 子宮がん検診 大腸がん検診 乳がん検診	<ul style="list-style-type: none"> 胃がん検診（胃造影（バリウム）検査）対象：組合員（希望者） 子宮がん検診（家庭検査式）対象：組合員・被扶養者（希望者） 大腸がん検診（便潜血検査）対象：組合員（希望者） 乳がん検診（巡回検診車による）対象：組合員（希望者） 	受診人数 ・ 胃集団検診 130人 ・ 子宮がん検診 110人 ・ 大腸がん検診 180人 ・ 乳がん検診 150人
★ 生活習慣病重 症化予防事業	生活習慣病の重症化リスクや人工透析リスクが高い*組合員・被扶養者を対象に医療機関への受診勧奨や保健指導を実施する。 * 血圧、血糖、脂質、尿蛋白及び血清クレアチニンに関する健診結果が基準値以上	－
フィットネス サポート	事業主健診、人間ドック及び節目健診の結果で、BMIが25以上の組合員及び被扶養者を中心に、スポーツクラブを利用して、運動の実技指導や食事の助言を行う。	申込者数：80人